

巻頭インタビュー

東北でインドネシア人が 幸せに暮らすために ～「東北家族」の創設者に聞く～



ワヒュさん(左)と
イスワユディさん(右)

東日本大震災発生後、宮城県内に住むインドネシア人の数が急増しています。(法務省在留外国人統計によると、2017年末時点で、2011年末の3倍を超える778人)復興が進み、労働需要が高まったことで、水産加工や建設関係の現場で働く技能実習生が大幅に増えています。今号の「倶楽部MIA」では、東北地方在住インドネシア人の親睦団体「東北家族」を創設したおふたり、イスワユディさん(以下、ユディ)とワヒュスコチャーさん(以下、ワヒュ)に話を聞きました。

——まず、出身地について教えてください。

ユディ 首都のジャカルタがあるジャワ島の南東に位置する、東ジャワ州ルマジャン県の出身です。バナナの栽培でよく知られています。

ワヒュ ジャワ島東端部にあり、バリ島に近い東ジャワ州バニュワンギ県で生まれ育ちました。バニュワンギ県は、「ナシ・テンボン」という激辛料理で有名です。

——おふたりとも奥様は日本人と伺いましたが、出会いはどちらだったのでしょうか？

ユディ 私の実家です。妊娠中の義理の姉のお世話をしていたのが、青年海外協力隊員(職種:助産師)としてインドネシアに赴任していた妻でした。妻が私の実家に遊びに来て知り合い、交際が始まりました。2002年に妻の出身地である仙台に来て、翌年、結婚しました。

ワヒュ 妻と出会ったのは、バリ島です。私が勤務していた革製品を扱う店に、旅行中の妻が訪れたのがきっかけです。数年の交際を経て、2007年に妻の故郷仙台に生活の場を移し、翌年、結婚しました。

——ドラマチックな出会いですね。ちなみに、おふたりはこれまで日本でどんなお仕事をされてきたのでしょうか？

ユディ 大工を8年ほどした後、水産加工会社で約3年、働きました。現在はインドネシアからバイオマス発電の原料となるヤシ殻を輸入している会社に勤務しています。

ワヒュ 会社は1度変わりましたが、ずっと水産加工の仕事をしています。

——「東北家族」を立ち上げたのは、どうしてでしょう？



帰国する技能実習生の送別会

ユディ 私自身、日本語を使って仕事や生活をする上で困ることがたくさんありました。それで、インドネシア人が日本で幸せに暮らすためには、インドネシア人同士で何でも話せる場が必要だと思い、2009年にワヒュさんと「東北家族」を立ち上げ、メンバー9人で活動をスタートしました。

ワヒュ 立ち上げた時のメンバーは、私達のような日本人と結婚したインドネシア人がほとんどでしたが、今は技能実習生が多いですね。徐々にメンバーの数が増え、メンバーが住んでいる地域も広がり、現在は東北全体で300人ほどが活動に参加しています。

——どんな活動をされているのでしょうか？

ユディ 初めのうちは喫茶店で話をしたり、誰かのアパートでインドネシア料理をつくって食べたり、ごはんまじりと活動していました。人数が増えるにつれ、活動の規模が大きくなり、今は年に2回、仙台市内や塩釜市内で大規模な集まりを催しています。1回は、任期を終えて帰国する技能実習生の送別会、もう1回はイスラム教の断食明けのお祝いです。断食明けのお祝いは、「ハラル・ピ・ハラル」といって、日本のお正月みたいな感じです。

ワヒュ メンバーは皆、家族同様ですから、様々な相談に応じています。技能実習生がけがをしたという連絡が来て、ユディさんと現場に駆け付けたこともありました。

——宮城県にインドネシア人が増えていることを、どんなふうに感じていらっしゃいますか？これからのことについても、教えてください。

ユディ インドネシア人が増えているのは、すごく嬉しいです。「東北家族」として、今、1番やりたいことは、ボランティアです。ごみ拾いでも何でもいいので、自分達を受け入れてくれる日本への感謝を込めて、皆で一生懸命に取り組みたいと思います。インドネシアの文化を広く東北の皆さんに紹介するイベントの開催にも力を入れています。

ワヒュ 私も仲間が増えていることを嬉しく思っています。周囲のインドネシア人には、日本人に積極的に話しかけるようにいつも言っています。インドネシア人は、明るく、人懐っこいところがあります。東北の皆さんも、インドネシア人と知り合ったら、ぜひ話しかけてみて下さい。そうすることで、2つの国の絆が強くなると信じています。

このコーナーでは、県内の国際活動団体の2018年8月～9月の活動予定をご紹介します。

MIAイベントカレンダー

2018	8	S	M	T	W	T	F	S	9	S	M	T	W	T	F	S
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	

※●はイベント開催予定日です。詳しい内容については以下でご確認ください。

アイコンの見方

主催

会場

時間

申し込み

参加費

電話

FAX

Eメール

HP

ホームページ

8月 AUGUST

4日

日本語を母語としない子どもと親のための
進路ガイダンス2018

- 主催 日本語を母語としない子どもと親のための進路ガイダンス実行委員会
- 共催 宮城県国際化協会(MIA)など
- 会場 仙台国際センター 1階 交流コーナー
- 時間 13:00～16:30(受付12:30～)
- 要(電話・FAX・メール)
- 無料
- 電話 022-275-3796
- FAX 022-272-5063
- Eメール mail@mia-miyagi.jp
- HP http://shinro-miyagi.jimdo.com/

5・6・8・10・19・26日

瑞巖寺ボランティアガイド

- 主催 松島善意通訳者の会
- 会場 瑞巖寺
- 時間 10:00～15:00
- 不要(直接現地へ)
- 入館料700円は自己負担
- HP http://www.geocities.jp/matsushimagw

5・6・8・10・19・26日

円通院ボランティアガイド

- 主催 松島善意通訳者の会
- 会場 円通院
- 時間 10:00～15:00
- 不要(直接現地へ)
- 入場料300円は自己負担
- HP http://www.geocities.jp/matsushimagw

9日

「地球のステージ」

- 主催 宮城県ユニセフ協会、みやぎ生協
- 会場 太白区文化センター 楽楽楽ホール
- 時間 10:30～12:30
- 要(電話・FAX・メール)
- 無料

080-5849-6072

FAX 022-218-3663

Eメール sn.municef_miyagi@todock.jp

HP http://www.unicef-miyagi.gr.jp

15日

申請取次行政書士による外国人のための
入管手続無料相談会

- 主催 宮城県行政書士会
- 会場 仙台市青葉区役所 4階 市民相談会会場
- 時間 13:00～16:00
- 電話受付または予約なしでもOK
- 無料
- 電話 022-261-6768
- FAX 022-261-0610

9月 SEPTEMBER

2・7・16・17・24・30日

瑞巖寺ボランティアガイド

- 主催 松島善意通訳者の会
- 会場 瑞巖寺
- 時間 10:00～15:00
- 不要(直接現地へ)
- 入館料700円は自己負担
- HP http://www.geocities.jp/matsushimagw

2・7・16・24・30日

円通院ボランティアガイド

- 主催 松島善意通訳者の会
- 会場 円通院
- 時間 10:00～15:00
- 不要(直接現地へ)
- 入場料300円は自己負担
- HP http://www.geocities.jp/matsushimagw

17日

せんだい地球フェスタ2018

- (同時開催:仙台国際センター秋祭り せんだい育ち2018)
- 共催:せんだい地球フェスタ実行委員会・青葉山コンソーシアム

仙台国際センター 展示棟

10:00～16:00

不要

無料

022-268-6260

FAX 022-268-6252

Eメール senfesinfo@gmail.com

HP http://senfes2018.jimdoofree.com

19日

申請取次行政書士による外国人のための
入管手続無料相談会

- 主催 宮城県行政書士会
- 会場 仙台市青葉区役所 4階 市民相談会会場
- 時間 13:00～16:00
- 電話受付または予約なしでもOK
- 無料
- 電話 022-261-6768
- FAX 022-261-0610

20日

歴史の時間と物語の時間

- 主催 アフリカ・セミナーの会
- 会場 仙台国際センター 研修室
- 時間 10:00～12:00
- 不要
- 1,000円
- 電話・FAX 022-362-7907

30日

中村梧郎写真展

- 「ベトちゃんドクちゃんをおぼえていますか?」
- 主催 宮城県ユニセフ協会
- 会場 仙台市福祉プラザ 1F プラザホール
- 時間 10:00～19:00
- 不要
- ※ギャラリートーク(①11:30～、②15:00～)は、電話・FAX・メールで要申し込み
- 無料
- 080-5849-6072
- FAX 022-218-3663
- Eメール sn.municef_miyagi@todock.jp
- HP http://www.unicef-miyagi.gr.jp

使って覚える
楽しい漢字地域日本語教室向けの漢字学習用テキスト「使って覚える
楽しい漢字1・2」を頒布しています

「使って覚える楽しい漢字」は、MIA日本語講座で使用する初級漢字教材として、同講座の講師陣が中心となって作成したものです。日常会話はある程度できるけれども、漢字学習は後回しになってきた、初級後半から中級くらいの学習者を主な対象としています。

「漢字1」「漢字2」どちらも500円で、MIA事務所で頒布しています。送付をご希望の場合は、MIAにお問い合わせ下さい。



「MIA外国人支援通訳サポーター登録前&スキルアップ研修会」のご報告



5月23日(水)、MIA外国人支援通訳サポーター登録前&スキルアップ研修会を開催しました。保健医療、生活相談、外国籍の子どもサポート及び災害時通訳の4分野合同の研修で、約40名が参加されました。テーマは近年通訳派遣案件が急増している「結核現場における通訳」です。県保健福祉部疾病・感染症対策室による結核についての基礎講座に続き、MIA外国人支援通訳サポーターのドゥワディ アルンさん(ネパール語)と小野田照子さん(インドネシア語)による体験談の発表が行われました。

アルンさんは、結核に感染して入院しているネパール人の通訳をした経験を紹介し、「外国で病気になり、外部との接触も制限されて辛い思いをしている人の通訳は、こちらも辛かった。夕食の時間がかなり早いことなど、日本の病院の生活に違和感を持つこともあるようだった」と振り返りました。また、「ネパール人は、『病気になったから薬を飲む』と考えるので、予防のための服薬を理解してもらうのはとても難し

い」など、医療に関する認識の違いについても言及しました。

小野田さんは、結核への感染が疑われるインドネシア人の検査の際に通訳した経験について話し、「医療通訳は準備が大事」と強調しました。そして、使用する可能性のあるインドネシア語の単語を予め調べたり、結核についてインドネシア語で書かれた資料を公的機関から送ってもらったりしたことなど、具体的を挙げながら準備内容を詳しく説明しました。さらに、「専門用語をできるだけ使わず、簡単な言葉で話す」、「イラストを利用する」など、医療現場でスムーズに通訳を行うために気を付けていることも紹介しました。



「MIA多言語かわら版」にネパール語を追加

「MIA多言語かわら版」は、県内に住む外国人がより快適な暮らしを送ることができるよう、日本の教育、医療制度、交通ルールなど、外国人が日常生活を送る上で必要とする様々な情報を多言語で提供するもので、最近のテーマは下記の通りです。

- Vol.71(2018年6月発行)「ボランティア活動について(2)」
- Vol.70(2017年12月発行)「ボランティア活動について(1)」
- Vol.69(2017年10月発行)「教育相談窓口について」
- Vol.68(2017年8月発行)「税金について」
- Vol.67(2017年6月発行)「外国人相談窓口について」

2017年度は、日本語、英語、中国語、韓国語、ベトナム語、インドネシア語の6か国語で発行していましたが、日本語学校に通うネパール人などが近年、急増していることから、2018年度はネパール語を追加した計7か国語で情報をお届けしています。

外国人にとって有用な情報であるだけでなく、日本人が身近にいる外国人に日本の制度や習慣について説明する時にも役立ちます。

「MIA多言語かわら版」は、当協会HPに掲載しておりますので、ご関心のある方はぜひご覧下さい。

URL:<http://mia-miyagi.jp/publication.html#kawaraban>



JICA東北からのお知らせ

所在地 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1

仙台第一生命タワービル20階

TEL 022-223-4772 FAX 022-227-3090

E-mail thictpp@jica.go.jp

JICA東北ホームページ <http://www.jica.go.jp/tohoku/>

※JICA=独立行政法人国際協力機構(開発途上国に対する総合的な二国間援助機関で、技術協力・有償資金協力・無償資金協力を行っています)

宮城県出身の青年海外協力隊員の活動紹介

丸森町の小学校で勤務している岩佐美都さんは、2016年6月から今年の3月まで、中米のベリーズに青年海外協力隊として派遣され、小学校算数の質の向上のため活動してきました。手作り教材や日本の算数セットを紹介したり、算数指導法研修を実施したりして、ベリーズの先生たちが「楽しくわかりやすい算数」の授業をできるよう工夫しました。

★岩佐さんのメッセージ★

「世界を知ること」が「自分を知ること」に繋がり、様々なことに感謝できる自分になりました。青年海外協力隊として任国で学んだことを、今いる場所で活かしていきたいと思っています。

【青年海外協力隊の次回募集は10月です。応募相談はいつでも受付!JICA東北まで】



ベリーズの子どもたちに算数を教える岩佐さん



TOHOKU
UNIVERSITY

東北大学 国際広報センターからのお知らせ

所在地 〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1

東北大学 広報室内

TEL 022-217-4816

E-mail public_relations@grp.tohoku.ac.jp

Web <https://www.tohoku.ac.jp/en/>

東北大学のニュース・イベント情報や、宮城の良さを英語100%で発信中!

Falling Walls Lab Sendai 2018

Falling Walls Labとは、「ベルリンの壁」崩壊20周年を記念し、2009年ベルリンに設立された財団「Falling Walls Foundation」主催の弁論大会です。全世界にある「様々な壁」を打破することをメインコンセプトに、あらゆる国籍および専門分野を対象として、若手研究者が3分間で自身の研究活動を英語で紹介します。

Falling Walls Lab Sendai (仙台的予選大会)にて、審査員より選出された入賞者3名は、ベルリンで開催される「Falling Walls Lab Finale」への切符を手に入れます。本学での開催は、2014年に東アジア地区で初となる予選会を開催して以来5回目となります。

詳細はこちら:<http://www.tfc.tohoku.ac.jp/fwls/>





「東北大学国際祭り」に、県内4市町の国際交流協会がブース出展しました

今年で33回目となる「東北大学国際祭り」が、東北大学川内萩ホール前で7月1日(日)に実施され、県内の市町村国際交流協会の参加数としてはこれまでで最も多い4つの国際交流協会(白石市、蔵王町、松島町、美里町)がブースを出展しました。

各国際交流協会は、観光PRをしたり、書道、折り紙といった日本の伝統文化を体験できるコーナーを設けたりして、ブースを訪れた留学生やその家族との交流を深めました。

市町村国際交流協会のブース出展は、主催団体である東北大学留学生協会(TUFSA)の「地域とのつながりを持てる場にしたい」との意向もあり、当協会が3年前から参加を呼び掛けているもので、当協会は市町村国際交流協会のブース出展に関して各種サポートを行っています。



「武将」との記念撮影(蔵王町国際交流協会) 書道体験コーナー(白石市国際交流協会)



ライブラリー

ライブラリーのコーナーで紹介されている図書は全て貸し出しまたは当協会図書資料室で閲覧可能です。

「虹のつばさ」外国人の子ども・サポートの会 文集 2018年

外国人の子どもへの支援活動を13年にわたって続けている「外国人の子ども・サポートの会」の会員の皆さんによる文集です。

前半は、発足から現在までの会の足跡がまとめられていて、これまで、子どもを対象とした個別の学習支援や進路指導、交流会や研修会など、さまざまな取り組みを続けてきたことがわかります。(その功績が認められ、2015年度には内閣府の「子供と家族・若者応援団表彰」を、2016年度には代表の田所希衣子さんが「文化庁長官表彰」を受賞しています。)

サポーター会員、生徒会員による作文では、これまでサポートをするなかで、またはサポートを受けるなかで感じてきたことが綴られています。サポーター会員の多くが、「自分にとっても得るものが大きい」「貴重な経験をしている」と述べていて、サポート活動が双方向の学びの機会となっていることが伝わってきます。

生徒会員の読みやすさを考え、漢字と片仮名は全て振り仮名つき。その作業も含めて全て会員の手作り編集されていて、そうした意味でも、会員のみなさんの13年の思いがぎっしりとつまった1冊です。



サポーターの声

小野田 照子さん MIA外国人支援通訳サポーター (インドネシア語)



語学専門学校卒業後、東京でインドネシア語を使う仕事に携わっていたのですが、結婚を機に20年前に宮城に移り住みました。子どもが小学校高学年になったことや東日本大震災を経験したことなどから、再びインドネシア語に関係する活動をしようと思い、6年前に通訳サポーターに登録しました。

これまで行政機関、医療機関などでの通訳を経験しました。やりがいを感じるの、人と人とがコミュニケーションをとるお手伝いができる点です。自分が通訳したことで、それまで言葉の壁があるために意思疎通が図れなかった方々の間に、「そういうことだったのね」という雰囲気生まれるのを見るのは、うれしいものです。

通訳に行く前は、「ちゃんと訳せるかな」とかいろいろなことを考え、今でもとても不安です。だから、準備は入念にしています。また、通訳を終えた後は、反省点などをまとめて文章として残していますが、「ここが失敗だった」ではなく、「次回はこんなふうにして」と反省点を前向きに捉えるように心掛けています。

現在、月1回、有志でインドネシア語の勉強会を開いており、インターネット上で公開されている医療通訳のシナリオを翻訳するなど、スキルアップに取り組んでいます。これからも文化と文化の間に立つ者として、様々な方々の円滑なコミュニケーションのためにお役に立てればと考えています。

「MIA 外国人支援通訳サポーター」とは…

県内に暮らす外国人が、安心して医療や公的なサービスが受けられるよう、保健所や医療機関、行政機関などで通訳活動を行うものです。「MIA外国人支援通訳サポーター」への登録をご希望の方は、MIAまでお問い合わせ下さい。

賛助会員募集

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。



●賛助会員の資格

本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただける個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など

●賛助会員の区分と年会費

個人会員/1口 3,000円
団体会員/1口 10,000円

●賛助会員の特典

◎協会機関紙「みやぎの国際情報誌 倶楽部MIA」の
定期送付(年6回)

◎当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免

◎個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引
(株)JTB東北仙台支店 宮交観光サービス(株)

◎企業会員については世界各国国旗の無償貸し出し、及び当協会の外国人スタッフ等による国際理解出前講座の無償提供

●入会方法

◎本協会あて御連絡ください。
所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部 **MIA** vol.98

編集・発行
公益財団法人 宮城県国際化協会
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号
宮城県仙台合同庁舎7階
TEL 022(275)3796
FAX 022(272)5063

E-mail mail@mia-miyagi.jp URL http://mia-miyagi.jp/